

## 令和6年度 奈良県食と農の振興会議 議事概要

### 1. 開催日時

令和7年1月28日（火）10時00分～12時00分

### 2. 開催場所

奈良市法連町757-2

ホテルリガーレ春日野 吉野の間

### 3. 出席者

委員：池田委員、小川委員、奥西委員、栗原委員、金剛委員、下川委員、  
菅谷委員、竹田委員、堂土委員、中筋委員、林委員、福原委員、  
増井委員、松田委員、森川委員  
（出席15名）

県：永田農業政策顧問

乾食農部長、阪口食農部次長、吉田食農部次長、長谷川食農部次長

藤井中央卸売市場再整備推進室長

藤井農業水産振興課長、内田畜産課長

片山担い手・農地マネジメント課長、外園農村振興課長

他担当職員

### 4. 議題

(1) 奈良県食と農の各分野における主な施策の進捗等について

(2) 奈良県豊かな食と農の振興計画について

○配布資料

・令和6年度 奈良県食と農の振興会議資料

### 5. 公開・非公開の別

公開（傍聴 0人）

## 議事内容

- (1) 奈良県食と農の各分野における主な施策の進捗等について  
各担当課より説明
- (2) 奈良県豊かな食と農の振興計画について  
阪口次長より説明

## 意見概要

### 【永田顧問】

- ・ 昨年末には米不足が大きな話題になり、今年になっても値上がりが続くが、農家の立場ではまだまだ生産に見合う米価ではないのが実情である。肥料や農薬など生産資材の高騰により農家は大変苦勞しているところ。
- ・ そんな状況の中、奈良県の生産量を増加し、また農家が自立していけるような状況を作っていきたいと考えている。
- ・ 奈良県豊かな食と農の振興計画は、令和8年度からの第2期計画に向けて7年度は締めくくりと出発にあたって検討していく大切な時期である。各方面のリーダーである委員の皆様からの忌憚のない意見をいただきたい。

### 【金剛委員】

- ・ プロモーションの一つとして自治体に関心を持っているのはふるさと納税で、市では、とびきりの農産物を若い層にPRする手段としてふるさと納税をもっと増やしていきたい。県からも農業者へ働きかけをお願いしたい。
- ・ 獣害対策として市でジビエの加工場を立ち上げ、運営が軌道に乗っている。農家は獣害対策の負担が軽減され、感謝の声をいただいている。
- ・ 市で作っている公民連携プラットフォームのテーマの一つに「農と食の活性化」があり、関心のある企業等に参加していただいている。農業法人など何社か集まってコンソーシアムを作り、市が一緒になって担い手を育成していく取組をしているところ。  
⇒ 奈良県では県としての返礼品が少なかったこともあり、その数を増やし、県の魅力を伝えていくために市内で取り組んでいるところ。
- ・ 県では捕獲されたイノシシやニホンジカは貴重な資源であると認識している。例えばおいしいならのジビエ提供店の情報発信、ならジビエPRイベントの開催などを実施している。

### 【奥西委員】

- ・消費者団体として食料自給率の問題に関心を持っており、奈良県の食と農を盛り上げていきたい思いを持っている。生協組合員や生産者、消費者、事業者、行政関係者等と一緒に奈良県の食と農で何ができるか考えて行動し、奈良県で頑張っている生産者を応援したい。
- ・ならコープでは「コープの農場」を始めており、組合員が暑い中で農作業するなど食料品を作る大変さを実感している。品種の特徴や適した食べ方、保存方法など消費者としてもっと勉強していきたい。
- ・生協の意識調査では、組合員の平均年齢は60代で、70代が利用される商品は実際は子どもや孫に購入されていたという結果もあり、若い方々への食の情報提供について考えているところ。
- ・農村地域づくりに関連して、高齢化社会に向け、例えば生きがい農業のための組合設立など協同組合として様々な可能性を探っていきたい。

### 【菅谷委員】

- ・令和8年秋に全国の土地改良関係者が集まる大会を奈良で開催するため、準備を進めている。奈良県の農業をPRする機会になるため、関係機関のご支援をお願いしたい。
- ・少子高齢化で担い手の確保が難しい中、スマート農業による効率的な農業の展開が欠かせない。高収益な農業も大切だが、土地利用型農業を行う水田も維持していく必要がある。畦畔の除去で区画整備をすることで畦の草刈りや水管理といった作業が軽減できる。そんな農地を広げていくべきだと考えている。
- ・県では特定農業振興ゾーンにも取り組んでいただいているが、市町村や団体が取り組む基盤整備事業における県の補助率の嵩上げを検討いただき、農家の負担軽減と機動的な圃場整備に取り組んでほしい。  
⇒・県では水田農業を継続的に進めるための新たな取組として「サステナブルな奈良の水田営農に関する取組」を来年度から始める予定である。集落営農など組織化を目指して取組を進めると農地の集約化が必要となり、基盤整備も必要となる地区もある。そのような地区では基盤整備の補助率について、今後検討していきたい。

### 【森川委員】

- ・町内には耕作放棄地が多くあるが、一方で大きい農地はない。そんな中で公益の農業法人の設立を検討しており、農地を集約し農業振興を行政がしっかり

り支援していきたい。また、食品残渣を利用した肥料を農地で活かし、そこでできた農産物を食品会社に販売するようなシステムを作っていきたいと考えている。

- ・これらの事業化を進めるために財政措置や知恵など県にも力を借りたい。

#### 【堂土委員】

- ・県としてふるさと納税に取り組むことは魅力的で PR に繋がると考える。県下全域の野菜の詰め合わせを始めたが、リピートも出てきており、市町村を越えた商品の組み合わせは、今後のツールとしてもとても良いと思った。
- ・県内各地の農畜水産物を県域で流通させる基盤をしっかりと整備する仕組み作りが必要。
- ・東京に PR することも大事だが、他の地方へ行って相互に PR する場があると販売の戦略を立てるのに役立つので良い。

#### 【池田委員】

- ・奈良県豊かな食と農の振興計画の KPI に記載のある奈良県プレミアムセレクトについて今後認証される可能性がある品目を教えてほしい。
- ・中央卸売市場の現状と方向性を教えてほしい。  
⇒・奈良県プレミアムセレクトは柿で「富有」と「刀根早生」、牛肉で「大和牛」、イチゴで「アスカルビー」と「古都華」、梨で「二十世紀」の6つがある。目標の7つに向けてアマゴと蜂蜜を検討中で、品目を増やしていきたい。
- ・令和3年12月に卸売市場の再整備に係る基本方針を策定、民間活力の活用と市場原理の強化の観点を取り入れて令和6年7月に改正した。まずは市場エリアを先に整備し、その間に賑わいエリアの内容を検討するという段階的な整備に変更している。令和13年度に市場棟の完成、令和15年度に賑わいエリアに着手という予定で進んでいる。

#### 【中筋委員】

- ・指導農業士として新規就農者や後継者を増やしていきたい。夢があり、儲かる農業で若い方に農業をしてもらえるように指導農業士が見本になりたい。
- ・平群町で観賞用の切り花を生産しているが、産学官連携で食用バラの生産を始めており、平群町の特産品の一つとしてふるさと納税の返礼品になるよう商品化を進めているところ。
- ・施設等が老朽化しており、整備に対する補助金のサポートはとても助かる。

また、新規就農者は販売先に苦勞していると聞くので、農業を続けられるようサポートを今後も引き続きお願いしたい。

**【下川委員】**

- ・女性農業者も増えているが高齢化している中、今年の夏の猛暑等といった環境の中でも育てやすいような農作物や高齢者が取り組みやすいような新しい作物の栽培指導をお願いしたい。

**【福原委員】**

- ・平成 17 年に食育基本法ができ、学校給食に携わっている小中学校の栄養教諭が子どもたちに食の指導をしているが、なかなか理解が進んでいないのが現状。毎日の食事の中で地場産の野菜を使っていることを子どもたちに知らせる機会がほしい。
- ・次の食と農の振興計画の策定に向けて、ぜひ教育委員会や関係機関と相談いただいてより良い計画を作っていただきたい。

**【増井委員】**

- ・農業はマーケティングとコストの戦略が大事で、作ったものをいかに売るか、また農家がコスト意識を持つことが大事だと考える。
- ・本年度末に向けて、地域計画を農業委員会、市町村、県など関係機関が一緒になって作成している。地域の人と農地を 10 年後どうしていくか話し合いをし、地域の守るべき農地をまず決めてほしい。
- ・高付加価値農業や米の輸出など国が目指す施策を進める時に地域計画がないと支援しようがないので計画は大事だと考えている。
- ・関係機関の協力を得て地域計画がこの 3 月末にできる限り作成をお願いし、有事の際に地域で食べるものがなくなることはないよう精一杯取り組んでいただきたい。